

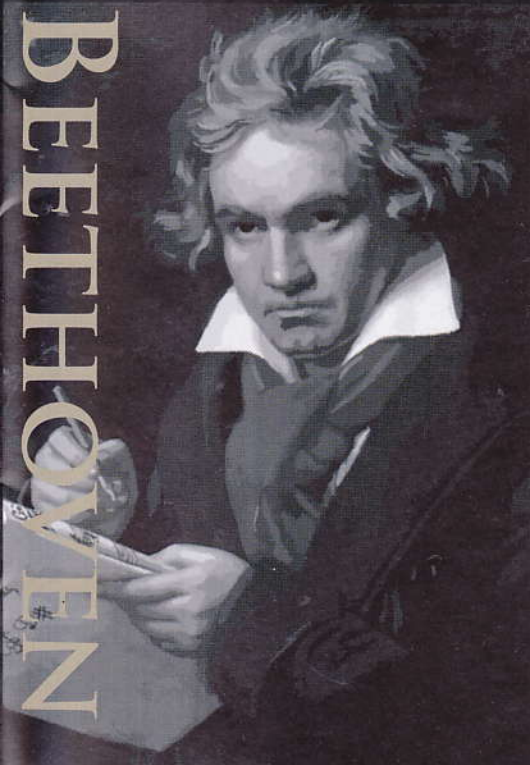
JOETSU SYMPHONY ORCHESTRA

上越交響楽団

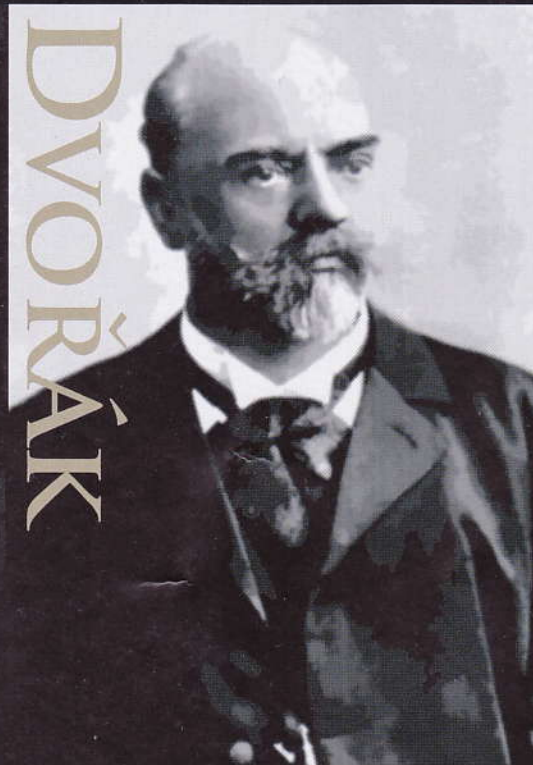
The 76th Regular Concert

第76回定期演奏会

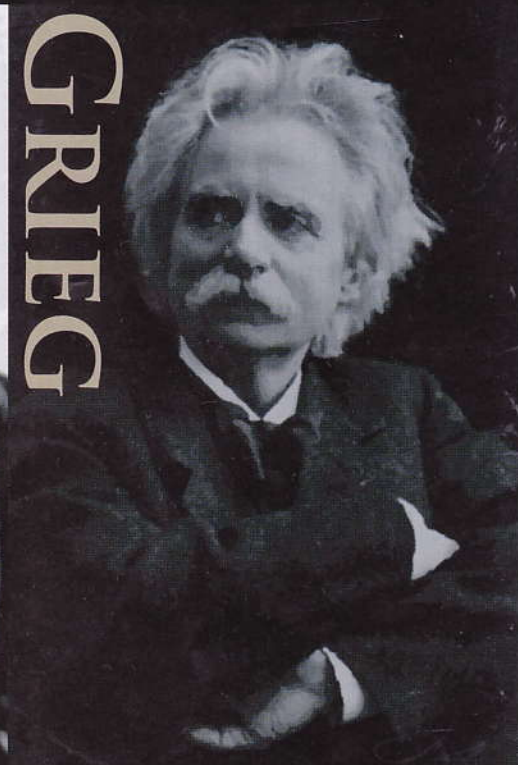
B
E
E
T
H
O
V
E
N



D
V
O
Ř
Á
K



G
R
I
E
G



指揮／長谷川 正規

コンサートマスター／三溝 健一

2016. **3.13** [日] 14:00 開演

上越文化会館

大ホール

ベートーヴェン／献堂式序曲
グリーグ／ノルウェー舞曲
ドヴォルザーク／交響曲第8番

Ouverture „Die Weihe des Hauses”
Norwegian dances Op.35
Symphony No.8

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います。

主催／上越交響楽団

後援／上越市教育委員会・妙高市教育委員会

本日は、上越交響楽団の定期演奏会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

今回の曲にはよく知られている曲、あまり知られていない曲があります。ベートーヴェンの献堂式序曲やグリーグのノルウェー舞曲を聴いたことがある人は少ないのではないのでしょうか。でもいい曲ですよ。そして、ドヴォルザークの交響曲第8番は、よく知られている快活でスカッとする名曲です。ところでこのような曲には歌詞が無いのが普通です。でも所々に素晴らしい旋律が出てきます。第1楽章の冒頭の旋律はすぐ覚えそうですし、第3楽章の旋律はあまりにも綺麗なもので、練習中の事ですぐ自分のパートを弾くのを忘れて聴きほれていた人がいたほどです。第4楽章には聴いたことのあるような旋律が次々出てきます。色々歌いやすいような旋律に歌詞をつけてみると曲の親しみがわくかも知れません。でも小生はそのまま聴きほれるのが良いなと思います。そして、主旋律の他に裏で別の旋律（対旋律と言います）が流れているのに気づくともっと楽しくなります。ドヴォルザークという作曲家はそのような事が得意なのです。

指揮者

Hasegawa Masanori

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。

ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。指揮の機会も多く、上越交響楽団、新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団、上越市民吹奏楽団等のほか、ミュージカルやオペラの分野に活動の幅を広げている。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Samizo Ken-ichi

三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕柘、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”(弦楽合奏)」「室内楽“EAU”(ピアノアンサンブル)」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／常任・客演コンサートマスター、副指揮者（足立・松本）。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院 講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



プログラム&曲目解説

■ベートーヴェン／献堂式序曲 作品124

1822年にウィーンに新築されたヨーゼフシュタット劇場のこけら落とし祝典劇「献堂式」への音楽を依頼され作曲した序曲です。ベートーヴェンが依頼を受けたのがイベントの数か月前で、折しも「第九」に匹敵する規模の大作「ミサ・ソレムニス」の作曲に取り組んでいるところであったため、劇音楽をすべて書き下ろしている余裕がありませんでした。そのため、10年前にブダペスト音楽祭のオープニングのために作曲した劇音楽「アテネの廃墟」を流用し、序曲と合唱曲を付け加えた形で完成させました。

■グリーグ／4つのノルウェー舞曲 作品35

ノルウェーの作曲家グリーグが活躍した当時、スウェーデンの統治下にあったノルウェーでは統治への不満により独立への機運が高まった時代でした。そんな中、グリーグはノルウェーの自然や文化をこよなく愛し民族舞踊や音楽に大きく影響を受け、民族性を生かした音楽創作への思いを強くしました。「4つのノルウェー舞曲」は民族音楽の影響から生まれた音楽の一つで、ノルウェーの農民のあいだに伝えられた舞曲を元にピアノ連弾用の曲として1881年に作曲されました。今回演奏する管弦楽版は、のちにボヘミア出身の作曲家で音楽教師のハンス・ジットによって編曲されたものです。

第1曲

インパクトのあるリズムの後にクラリネットとヴァイオリンによって緊迫感のある弱奏で開始されます。次に主題が各楽器に現れ速い展開の中で緊張感が増します。中間部は対照的に穏やかな雰囲気の中で木管楽器がのびやかに歌います。微妙な調性変化によって光や翳りを見せながら再び前半部の主題に戻ります。

ベートーヴェンの他の序曲とは趣が異なり長大なフーガにより構成されています。堂々たるハ長調和音で幕開けが告げられ、厳かな行進曲のような序奏に始まります。序奏がクライマックスを迎えるとファンファーレが鳴り響き、弦楽器と木管楽器の掛け合いの後に一気にフーガへつながります。フーガは飛び跳ねるようなリズムの主題が次々とあらわれる祝祭的で華やかな音楽です。主題が幾重にも折り重なりつつ緻密に組み上げられて、音の巨大な建築物が構築されるかのように曲を締めくくります。

第2曲

落ち着いた雰囲気、4分の2拍子の舞曲で始まります。オーボエによって始められる主題は優美なステップでダンスする情景が浮かび上がってきます。突如エネルギーが中間部に現れ、最初の主題を用いながらも急ぎ立てられるように情熱さを増しますが、再び落ち着いた雰囲気の前半部に戻ります。

第3曲

行進曲風の舞曲が木管楽器で快活に始められ、次第に盛り上がり全奏となった際に主題が三連符に変形して現れ賑やかな雰囲気になります。中間部では前半のト長調主題を短調に変奏した柔らかな哀愁漂う旋律が奏されます。

第4曲

暗示的な低弦の弱奏で曲が開始されオーボエとホルンが動機を提示します。動機は次に現れる活気のある旋律に展開します。中間部は不安定な雰囲気の中で曲が進みますが、オーボエとホルンの動機が形を変えて奏され全体を有機的につなぎ、主題を畳みかけるように華やかに終結します。

● 休憩 ●

■ドヴォルザーク／交響曲第8番 ト長調 作品88

ドヴォルザークといえば第9番「新世界より」が圧倒的に有名ですが、「新世界より」はアメリカ滞在中に強烈なカルチャーショックと、日に日に募る祖国チェコへの郷愁が交じり合う、いわば異常に高揚した精神状態の中で作曲されたものであるのに対して、第8番は「チェコの作曲家」としての特色がみずみずしく自然な形で表れている作品です。ドヴォルザークは第8番を1889年、48歳の年に持ち前の速筆で一気に作曲しました。夏に着手しスケッチは1か月足らずで終了、11月初めにはスコアが完成しました。作曲はブラハの郊外でボヘミアの自然の中、広々とした緑の草原に森が点在する美しい農村で行われました。ドヴォルザークはお気に入りの別荘を有しており、交響曲の性格は当然のことながら自然環境が影響していると考えられます。

曲の美しさとは裏腹に、楽譜出版に関してエピソードがあります。ドヴォルザークの作品は親交の深かったブラームスの仲介により、ベルリンのジムロック社から出版されていたのですが、この出版社は作曲料を渋り、まだそれ程有名ではなかった作曲家の交響曲は売れ行きが悪いとして、小品の作曲ばかり要求していました。業を煮やしたドヴォルザークはジムロック社に見切りをつけ、第8番をイギリスのノヴェロ社から出版しました。このことからジムロック社に対する抗議の意味で第8番には「イギリス」などとニックネームがつけられていましたが、後にブラームスのとりなしで両者は和解したといえます。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ

哀愁を帯びた雰囲気、ボヘミア風旋律で開始されますが、続くのは迫力に富む明るい旋律でコントラストが印象的です。これらの旋律が協調しながら盛り上がり第1主題部を形作ります。第2主題部にも対照的な2つの旋律が現れ、再現部を経て第1主題を素材とするコーダで簡潔に閉じられます。

第2楽章 アダージョ

のどかさや厳かさをたたえた主部の後にユーモラスなハ長調の旋律が続きます。再び主部が現れて劇的に緊張感が高まりますが、ユーモラスな旋律がまたこれに続きます。最後に主部の素材がもう一度回想されて静かに終わります。

第3楽章 アレグレット・グラチオーソ

古典様式の慣例的なスケルツォに代わりワルツが使われています。中間部の素材はドヴォルザーク自身のオペラ「頑固者達」と関連性があり素朴な味わいがあります。中間部の素材はコーダで2拍子にかたちを変えて扱われます。

第4楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo

変奏曲形式で書かれています。トランペットのファンファーレの後、チェロが変奏主題を歌います。続く変奏ではドヴォルザークならではの巧妙なオーケストレーションが発揮され、華麗さのうちに感情が高揚し全曲を締めくくります。

出演者

*は賛助出演ならびに団友

コンサートマスター 三溝 健一

第1ヴァイオリン

上野 圭子
大村 友紀
小菅 宏造
小森 裕
佐藤 さやか
洲崎 匡
橋本 士郎
平原 良晃
岩田 貴守*
折原 裕子*
田中 陽子*
増井 健一*
八國生 紗也乃*

第2ヴァイオリン

青木 由美子
安藤 優
飯吉 麻衣子
泉 紀子
大山 美乃子
齊藤 典子
田中 教生
藤田 尚
石津 忠*
近藤 将弘*

ヴィオラ

稲田 由佳
岩下 律子
清水 哉子
古海 法雲
渡辺 みほ
大庫 るい*
宮入 徹*
横田 裕祐*

チェロ

池田 なつき
稲井 進
上野 敦子
大坪 美樹
金森 史子
川合 礼
榎木 文子
村治 美代

コントラバス

秋山 雅央
岩岡 沙織
吉崎 須賀子
渡辺 光
松原 直之*
山崎 康正*

フルート

齊藤 孝久
丸山 恵理
高橋 由美*

オーボエ

羽賀 純子
橋本 直子
皆川 正弘
皆川 未央

クラリネット

齊藤 直美
鈴木 和久
富田 洋加

ファゴット

福嶋 梓
宮口 弘明

ホルン

飯田 美由紀
島岡 美沙
須田 孝義
森 真人
綿貫 英紀

トランペット

菅野 徳嗣
水越 舞
水澤 学

トロンボーン

笠野 光雄
西山 瑤
松田 彰英

テューバ

若井 一也*

パーカッション

稲田 善智
小浜 史頌
加藤 正之
小島 章子*

ピアノ

稲田 由佳

楽団紹介

1972年(昭和47年)結成。毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏や行事への参加を通じて、広く市民に愛されています。

上越市を中心に、県内各地から音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく、様々な楽曲に挑戦しています。

ことに近年は上越市ゆかりの方との共演を果たしています。2012年、大越さとみ氏を招き、白鳥の湖(ナレーション付)を、翌2013年は牧田由起氏を招き、ブルッフのヴァイオリン協奏曲を披露、好評を博しました。

現在は指揮者に上越教育大学の長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎え、充実した活動を展開しています。



■次回演奏会のご案内■

第77回定期演奏会

日時：2016年9月18日(日)14:00 開演

会場：上越文化会館 大ホール

ピアノ：山形 明朗

ニコライ / 歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

ラフマニノフ / ピアノ協奏曲第2番

ブラームス / 交響曲第4番

■団員募集のご案内■

上越交響楽団では常時団員を募集しております。

募集パート等、詳しくはお問合せ下さい。

素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。

団員一同、心より歓迎いたします。

Mail : mako2034@joetsu.ne.jp

Tel : 090-1606-1254 (茨木)

ホームページ:

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>

